

令和5年度 日本大学東北高等学校 自己評価票

【本校の目指す学校像】

日本大学の目的及び使命に基づき、「忠恕の心」、「自主創造」、「真剣力行」を教育方針（校訓）とし、高大連携教育の推進と協同的な学びを柱に、知的総合力の高い進学校としての発展を目指す。【本校の特徴】

日本大学工学部に併設する工業高校として昭和26年に創設され、現在は日本大学正付属の進学校として地域社会に定着し評価されている。

- 1 教育方針（校訓）に基づく創造性豊かで調和のとれた人間教育
- 2 日本大学への進学を軸に自らの進路を切り拓く力の育成
- 3 アクティブラーニングを取り入れた主体的な学び
- 4 人権・生命及び自然や環境を大切にす道徳教育
- 5 ネイティブ教員の英会話授業による国際性の涵養
- 6 専任の心理カウンセラーの配置

【令和5年度の重点目標】

- 1 新学習指導要領を踏まえた上での授業・評価の改善
観点別評価が生徒の学習意欲の高揚につながるよう、その評価の活用、通知方法について検討し運用する。
- 2 「高大接続改革」への対応
教務部、進路指導部、学年会が連携し、基礎学力到達度テストの成績向上につながるプロジェクトを構築する。
- 3 いじめ防止のための取組
学校生活アンケートの実施結果に基づき、担任・学年会・教育相談委員会との連携を更に密にし、対応に当たる。
- 4 日本大学への進学者数増加に向けた取組
 - ① 日本大学の魅力、研究実績や就職実績等を教員が再認識する。
 - ② 日本大学以外の大学についても知識を深め、生徒が熟考せずに合格しやすい大学を選択しそうになったときに、生徒の将来を思ってアドバイスできるようにする。
 - ③ 柔軟な進路選択ができるよう、1・2年生のうち、広い視野や価値観を持たせることにつながるような進路ガイダンスを実施する。
 - ④ 保護者対象進学説明会・日本大学工学部説明会への参加者数を増やす。
- 5 部活動地域移行に関する研究と本校部活動への導入の検討
令和4年12月にスポーツ庁及び文化庁から示された「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を基に、部活動の地域クラブ移行への仕組みを研究し、本校部活動に取り入れることが可能であるか検討する。

〔令和5年度の自己点検・評価結果〕

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和6年度取組方策 (Action)
教育活動	「新学習指導要領」への対応	学力の3要素(知識・技能, 思考力・判断力・表現力, 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)の育成・評価について, シラバスで生徒・保護者と共有した。また, 観点別評価を「校内成績処理システム」により指導要録に反映した。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に基づくカリキュラム3年目の授業・評価が適切に行われるよう整理していく。 ・令和5年度から令和6年度にかけて, 観点別評価が生徒の学習意欲の高揚につながるよう, 評価の活用について検討する。
	教員の資質向上のための校外研修の積極的参加	「校内公開授業週間」を年3回設けることで, 校内における教員間の風通しは良くなっているが, 校外研修への積極的参加を促すことはできなかった。	C	校外研修に係わる規定を整理し, 各研修会の情報を多くの教員が合理的に共有できる環境を構築する。
	「高大接続改革(日本大学進学者数増)」への対応	令和5年度は, 教務部, 進路指導部, 学年会が連携し, 基礎学力到達度テストの成績向上につながる学習指導の目線合せを行うことができた。	B	令和6年度は, 「ベネッセGTZ(2年生3月): B2」の目標を達成するための指導方法を確立し, 運用する。
学校生活への配慮	いじめ防止のための取組	年3回学校生活アンケートを実施して, 問題となる事案に対しては, 教育相談委員会を適宜開催し, 早期対応に努めた。校長の指揮の下, 生活指導部, 学年主任, 担任, 委員会関係者との連携を密にし, 問題事案に対応できた。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・事前指導 講演会・集会の実施, 交通指導等により, 生徒に「なぜいけないのか」を考えさせ, 注意喚起をする。 ・事後指導 事実確認後, 教員間で情報の共有(プライバシーの厳守)を図り, 指導方針を決定し, 被害生徒の保護者との連携を図る。 ・再発防止 目標の設定や, ルール作りにより, 被害生徒に将来への希望を持たせる。
	生徒の自律心の育成	生徒の自律心を育成する取組を継続している。例えば, 毎月実施する「身だしなみ向上週間」で生徒自身にセルフチェックを行わせ, 改善する指導を実施しており, 徐々に改善する傾向が見られるようになってきた。	B	校則等については, 教員が一方向的に決めるのではなく, 生徒に考えさせ, 遵守する意識を持たせるように取り組む。
	安全教育の推進	1学年には「自転車安全教室」, 「SNS・情報モラル講演会」, 「薬物乱用防止」の各講演会を聴講させた。 また, 市内の他私立学校と連携し, 警察, JR, 少年センターの職員と定期的に会合を行っている。令和5年度は6月と12月に実施し, 情報交換, 巡回強化の要請, 合同補導等を行った。	B	今後も各関係機関と連携を図りながら, 生徒の安心安全に向けた取組を継続していく。

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和6年度の取組方策 (Action)
課外活動	学校行事企画・運営方法の見直しと発展	コロナ禍を通してICTなどを利用した新しい形式での学校行事運営体制が構築され、かつて全校生徒が体育館に集合して実施していた生徒総会、部活動説明会、文化祭開・閉会式、生徒会役員選挙立会演説会等は各教室へのLIVE及び録画配信で実施した。文化祭は4年ぶりに生徒家族限定での一般公開で開催した。学校行事の運営方法を工夫することにより、安易な中止や縮小を避け、時間の有効活用を図ることができた。こうした取組の成果が学校自己点検・評価アンケート結果にも表れ、「学校行事の充実や、積極的に参加・協力する方策が講じられているか」の質問に対して3.40の評価を得ることができた。	A	新たな運営方法を基にした生徒主体の学校行事企画・運営体制の再構築を図る。
	部活動地域移行に関する研究と本校部活動への導入の検討	令和4年12月にスポーツ庁及び文化庁から示された「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を基に、令和5年度から3年かけて部活動の地域クラブ移行の仕組みを研究し、本校部活動に取り入れることが可能であるかの検討を始めた。しかし、地域クラブ移行の例が少なく、うまく情報収集を行うことができなかった。そのため、学校自己点検・評価アンケートの部活動に関する設問（家庭や地域との連携）については、2.98と全校平均を下回っている。	C	<ul style="list-style-type: none"> 先進的な対応を行う学校の実例収集を行う。 現行の部活動の中で、家庭や地域と連携を図る方法の検討を行う。
進路指導	日本大学への進学者数増加に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> 日本大学の魅力・研究実績・就職実績を教員が十分に認識し、生徒と共有した。 柔軟な進路選択ができるよう、広い視野や価値観を持たせるキャリア教育を実践した。 保護者対象進学説明会・日本大学工学部説明会の内容の充実を図った。 	B	令和5年度までの取組についての検証及び改善を図る。
	基礎学力到達度テストにおける成績の向上	ベネッセ実力診断テストを廃止し、基礎学力到達度テスト対策模試を実施した。	C	令和5年度から実施した基礎学力到達度テスト対策模試についての検証を行う。
保健衛生	教育相談体制の確立	本校専属カウンセラーが、教員と連携協力しそれぞれの生徒の状況に応じたきめ細かい対応を行った。また、生徒支援室と担任・学年会・生活指導部と円滑に連携し、複数教員による生徒のサポート体制を確立した。	A	本校の現状と地域性を含めて考えると、専属カウンセラーが常駐する体制は適切であり、更なる協力体制及び生徒対応の組織化を確立していく。

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和6年度の取組方策 (Action)
保健衛生	性に関する指導	講師を招いて1・2年生を対象に6月に実施した。ライブ配信での講演中心ではあったが、3クラスはSAKURAホールで聴講できたので、生徒の反応も講師が感じることができ、一定の効果が得られた。	A	1月の特別授業の中で、3年生も対象に実施し、生徒の性意識を高めることができるように検討していきたい。
	避難訓練及びシェイクアウト訓練	新型コロナウイルス感染症感染拡大対策中であったため、全校一斉での避難訓練と消防署職員講話は行わなかった。クラスごとに避難経路動画視聴と避難経路の歩行確認を実施した。また、机の下に身を隠し安全を守る「シェイクアウト訓練」を4月26日に実施し、防災意識を高めた。	B	火災のための避難訓練の実施に加え、水害対策として校舎3階・4階への垂直避難の訓練も想定する必要がある。
図書	図書館利用の推進	図書館利用の指導や学級文庫の設置、新刊案内等を出して図書館利用を推進した。また、かねて懸案であった図書館書庫の整理を行い、蔵書の点検を終了させた。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の利用者数の増加を図るために、情報発信を週単位で行う。 ・アクティブラーニングスタジオの利用の仕方を考える。 ・新刊図書の選定を工夫する。
	「研究・報告・創作集」の発行	教育の質の向上のため、「研究・報告・創作集」第20号を2月に発行した。	A	執筆する教員の確保が難しい状況ではあるが、教育の質の向上のためには必要な要素であり、多くの教員へ積極的に参加するよう呼び掛ける。
	芸術鑑賞会（音楽）の実施	10月26日に、クラシックオペラ「声の饗宴」という演目で、「けんしん郡山市民文化センター」において、芸術鑑賞会を実施し、生徒からは大変評価が良かった。	A	芸術鑑賞会を年2回行っているが、予算を考慮し、年1回の実施について検討する。
	校内文芸コンクールの実施	校内文芸コンクールを実施し、国語科と協力して作品の選定をした。	A	1・2年生は課題として全員参加であるが、自由参加の3年生に「校内文芸コンクール」への参加を呼び掛ける。
	読書上位者大賞の選考・表彰	令和6年2月に、3年生を対象に3年間の図書の貸出し冊数の多い生徒10名を表彰した。	A	図書館利用の推進と同じように、読書案内や図書館でのイベントなどを充実させる。
広報	広報活動の充実	広報誌を年3回発行し、ホームページの更新をできるだけ行い、学校行事等の広報活動に努めた。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを活用する。 ・広報誌「広報日大」の内容を充実する。
	生徒募集活動の充実	4年ぶりとなる体験型学校説明会ハイスクールビジットを2日間開催した。入試説明会は日曜祝日を利用して5回開催した。参加者アンケート結果では説明会が高評価であったが、専願推薦出願者数が令和4年度比50名減という結果だった。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生をターゲットとした学校案内を作成する。 ・本校生徒の発表を交えた学校説明会を実施する。 ・テレビコマーシャルを実施する。
管理運営 (分掌・会議・委員会、財政、施設・設備等)	個々の教職員の課題把握	校務運営委員会及び教職員会議で、教職員が積極的に発言や意思疎通が図られるよう取り組んだ。	B	教員室が分散しているため、個々の教職員の動きが把握できないというマイナス面があるため、大教員室に集約できるよう検討していく。

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和6年度の取組方策 (Action)
管理運営 (分掌・会議・委員会、財政、施設・設備等)	環境問題への取組	冷暖房の設定温度を夏季28℃、冬季22℃に設定による節電に取り組み、照明及びエアコンの消し忘れなどの確認を継続して行い、生徒及び全教職員に注意喚起することにより、環境問題への取組に結び付くよう啓発に努める。	A	新校舎のランニングコストをできるだけ低く抑えられるよう、保健衛生部を中心に、各学年会や事務課と連携して節電に努める。
	自己点検・評価委員会を中心としたPDCAサイクルの構築	組織としての教育活動の改善・充実を図るために、生徒による授業評価アンケートの結果(自由記述を含む)を基に、それぞれの校務分掌に該当する箇所を学年会、教科会、部会等で検証し、報告書を提出してもらった。本校の教育活動を充実させていくために、意義のある分析・検証結果となった。	B	学校生活アンケート、生徒による授業評価アンケート及び教員自己評価に基づき、教職員の課題を把握し、バージョンアップできるような教育体制を構築する。
	施設及び設備の安全と維持管理	生徒が安心・安全な学校生活を送るために、学校全体の施設及び設備の安全と維持管理を推進することができた。また、担任による教室等の管理についても、学年会と連携しながら適切に行うことができた。	B	危機管理の観点から、引き続き災害を想定した学校施設の安全性の確認を実施する。

〔令和5年度の自己点検・評価結果概要〕

1 新学習指導要領を踏まえた上での授業・評価の改善	新カリキュラムと旧カリキュラムが混在する中、探究を盛り込んだシラバスの作成と各教科の中での授業研究を進めることができた。また、観点別評価の3観点である「知識・技能」、 「思考・判断・表現」、 「主体的に学習に取り組む態度」を視点とした授業内容と定期試験問題の改善についても、より一層検討していかなければならない。
2 「高大接続改革」への対応	日本大学各学部への進学を見据え、教務部、進路指導部、学年会が連携し、特に工学部とは、ロハスプレゼン大会を開催して探究活動の成果を発表する取組が行われた。
3 いじめ防止のための取組	学校生活アンケート後の気になる生徒記述への対応について、担任・学年会・カウンセラーが連携し組織的に進めていくことができた。
4 日本大学への進学者数増加に向けた取組	日本大学の魅力、研究実績や就職実績等について、進路ガイダンスや担任との面談を通して、生徒に伝えることができた。また、保護者対象進学説明会・日本大学工学部説明会に参加した保護者にアンケートを実施した結果、とても良かったという回答が多く得られた。
5 部活動地域移行に関する研究と本校部活動への導入の検討	なかなか部活動の地域移行が進まない中、市内の公立中学校や高等学校の取組について状況を把握することができた。

〔令和6年度の重点目標〕

1 教員の資質向上のための校外研修への積極的参加

「校内公開授業週間」を年3回設けることで、校内における教員間の風通しは良くなっているが、校外研修への積極的参加を促すことはできなかった。教員の授業力の向上のために、校外研修に係わる規定を整理し、各研修会の情報を多くの教員が合理的に共有できる環境を構築したい。

2 基礎学力到達度テストにおける成績の向上

基礎学力到達度テストで、第一志望の日本大学各学部への進学者数を増やしていくために、定期試験、対外模試、基礎学力到達度テスト模試に向けた生徒への意識付けを行っていききたい。

3 部活動地域移行に関する研究と本校部活動への導入の検討

文武両道ができていない生徒の割合が、付属校の中でも高い数値となっていることを踏まえ、部活動の取組方について継続して検討する。また、令和4年12月にスポーツ庁及び文化庁から示された「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を基に、先進的な対応を行う学校の実例収集や家庭・地域と連携を図る方法についても調査したい。

以 上